

SCCJ(The Society of Cosmetic Chemists of Japan)は、化粧品の研究開発及び製造販売に携わる技術者への情報提供と交流・議論を目的とした学術団体です。2008年4月から日本学術会議協力学術研究団体として指定されています。会員数は1,808名(2021年4月1日現在)で、化粧品関連企業・教育機関など805団体にご所属の方がSCCJ会員としてご参加いただいています。また世界各国の化粧品技術者会で結成される国際化粧品技術者会連盟(IFSCC)にも加盟しています。

🍷 各種イベント参加であなたも化粧品業界人に。

SCCJでは年間を通じて様々なイベントが盛りだくさん！オンラインの機能を活用した新しい形での、フリーディスカッションも活発に行っています。日頃の業務に役立つ知見の他にも、思わぬ人脈の広がりや新しい情報に出会えるチャンスが目白押しです。

SCCJ 研究討論会

毎回、多岐にわたるテーマ発表に議論が盛り上がる。

最新技術の発表に、所属組織の垣根を超えて技術者同士が議論できる重要なイベント。

講演後、パネルディスカッション形式等で聴講者が発表者と直接対話でき、あなたの技術や知識に深みが増すことは間違いありません。

ユニークで大胆な発想で得られた成果を披露して下さる若手発表者を大歓迎いたします。

最新技術に対して白熱した議論



若手研究会

申し込み対象35歳未満推奨のイベント。聴講型セミナーでは味わえないグループディスカッション、グループワーク等を通じて、他の技術者との交流を深められる貴重な場。

いつもは競合会社の技術者同士もイベント中の共通課題について取り組んでいくうちに、意気投合してすっかりお友達に。



オンラインでの講演会、グループワークの発表も実施

実践講習会

微生物対策、乳化・可溶性、レオロジー、スケールアップなど化粧品技術のうち、主に処方開発関連の知識習得のイベント。

あなたが実務で直面している課題について、その道のエキスパートより、課題解決の糸口となる知識・技術をきっちり伝授頂けます。



多くの人が抱える難課題がスッキリ！

その他にも様々なSCCJならではの学会行事を企画しています。詳しくはWebサイト (<https://www.sccj-ifsc.com/>) でご確認ください



「SCCJって」どんなところ？

What kind of society is "SCCJ" ?



SCCJ西日本支部 副幹事長
山原 年氏
(株式会社桃谷順天館)

SCCJは化粧品に関わる様々な分野の技術者が集う、会社や年齢、立場などの垣根を超えて議論し、お互いに高めあうことができる他には例を見ない学術団体です。西日本支部は化粧品技術の進歩向上に貢献するのは勿論のこと、人と人が触れ合いお互いにより刺激を受けられようという会員の交流に力を入れています。きっとあなたの知りたいことや学びたいことがそこにあるはず。あなたもSCCJに参加し、一緒に高めあっていきませんか！

このたびは、SCCJ Pressをご覧いただき、ありがとうございます！日本化粧品技術者会は、化粧品の開発に関わるあらゆる分野の方々、技術や情報の交流の場として一堂に会し、それぞれのポテンシャルを高め合うフィールドです。マーケットではシビアな競争ですが、ここは本当に信じられないくらいにフランクで楽しい学びの場になっています。研究討論会、研究会、学術講演会、そして懇親会を通じての楽しいひとときは、皆さんに必ず、自信と輝きをもたらしてくれると思います！

Let's join together !



SCCJ東日本支部 副幹事長
林 昭伸氏
(株式会社アルビオン)

特集：化粧品技術者に訪れた変化について

日本化粧品技術者会広報委員会(D)

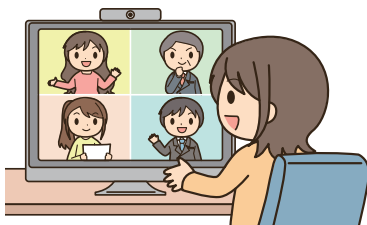
Special Feature: Changes Visited to Cosmetics Engineers

各社の働き方の変化

ここでは、化粧品メーカー2社と原料メーカー1社の社員の方々にインタビューを実施し、それぞれの職場でこういった変化が起きているのかをお伝える。参考になる部分があれば、各自の職場でも是非取り入れてみてはいかがだろうか。

【WEB会議】

- プレゼン時、声が大きくなりがちで、後から家族に注意されるなんて悲しいお話も。画面を前に手ぶりや顔き動作などをいつもより大きくして対応！



社内でのWEB会議も増え、個人用のWEB会議ブースを新たに設置した会社も。

【新たな取り組み】

- 出張や外出が減り“化粧品市場を見る使ってみる”機会が減少。一方、在宅時間が増え、シートマスクをしながらPC作業できたり、スキンケア時間が増え、使用アイテムが倍増。
- 自社内でウェビナーが頻繁に開催されるようになり、社外の方のセミナーはもちろん社内の取り組み等を紹介する場が新しくできた。
- 会うのにハードルが高かった海外の有識者とも、気軽にWEBで面談の申し込み等を行って研究を推進。



【コミュニケーション】

- メッセージ機能を利用して、全社リモートワーク社員と出社社員の情報差や連絡ミスをしないように工夫。
- 仕事仲間と外食ができなくなり、楽しみも減ってしまったので、恒例行事だった台湾ご飯会をオンラインで開催。台湾の夜景を背景に楽しい時間を共有。
- コミュニケーションが減らないように、週に1回は全員が顔をそろえる機会をWEBで設けている。そこで悩み事の相談も。



【メリハリのつけ方】

- 仕事とプライベートの気持ちの切り替えの為、服装を必ず変える。
- 仕事はじめや仕事が終わった後は、許す限り散歩やランニングをして、運動不足を解消。

以前から働き方改革や仕事のデジタル化が叫ばれ、徐々にその流れが進んできていたが、コロナ禍でその流れが劇的に加速した。今回の特集では、化粧品技術者に訪れた働き方の変化、また新しい形での学会活動、加えてSCCJの各種研究会や講習会の様子について紹介する。

学会活動の変化

～ The 31th IFSCC Congress 2020 Yokohama ～

■ コロナ禍の部会活動

リアル大会を想定し、1年以上前から準備を進めてきた各部会。コロナ禍の影響で「VIRTUAL CONGRESS」と題されたオンライン開催に変更が決まり、準備期間は数か月間に。各部会もリアルに集まることができず、部会内の新メンバーは最後までリアルにお会いすることができず画面越しの会議に参加する状況であった。WEBから覗く資料を確認しながらの打ち合わせが中心。会議の最後にカメラをオンにし、メンバーが手を振り合ってお別れ。短い開催準備もほとんどがオンラインの状況でVIRTUAL大会の第1回のモデルとして、最終的には多くの発表(口頭69題、ポスター367題)と参加者を集め、幕を閉じることができた。

～ 各種研究会、講習会はどう変わったか ～

ここ最近、WEB開催(オンデマンド)の研究会、講習会が多くなっているが、一長一短があるようだ。長所を挙げると、聞き逃しがあつた場合、再度戻って聞き直すことができる点が、とても便利に使える。一方、これは主催者側、講師の方から見ると、聴衆の反応が見えないカメラに向かって講義をされるのは、なかなか大変のように見受けられた。リアル開催は、ある程度の集中度と時間で成し得ることができるが、このような形もまた、今後の開催基準として定番となっていくと思われる。リアル開催できたときが、遠い昔のようで懐かしい・・・。

■ 発表者のご苦労

ポスター発表では、これまでと違い、データでの送付や様式の調整に戸惑うことも。リアルな対面説明と異なる分、受け身の要素が強く、アピールが思うようにできなかったりと苦労はありましたが、「いいね」ボタン、質問が来た時の「おっ!」、取引先からの「見ましたよ」の声、VIRTUALならではの予期せぬ場面での驚きと嬉しさも。

IFSCC Conference 2021 CANCUN



最先端の化粧技術に関する報告内容に加え、コロナ禍の中で培われたオンライン発表技術が様々に発揮され、今後の発表スタイルのスタンダードが生まれてくる大会。2021年10月25日～27日に開催されます。

